



日本離床学会 教育講座
苦手克服シリーズ 3

講座コード R-25

脳卒中の看護ケア・リハビリテーションに必要な高次脳機能障害の基礎知識

～的確なゴールを予測するための臨床応用法～

難易度 ★★★★★

日時：2021年

12月4日(土)

14:30~18:30

5日(日)

10:00~16:10

会場：インターネット生ライブ中継

見逃し受講期間 12月6日(月)~12月19日(日)

講師：飯田祥先生(日本離床研究会) 中村昌孝先生(守谷慶友病院)

対象：看護師・PT・OT・ST(左記以外でも受講可)

受講料：会員 16,800円(税込) 一般 19,800円(税込)

新入会 会費無料

※事前登録制：先着順で定員になり次第締め切り



※被写体はモデルです

前から疑問だった高次脳機能障害

一度ここで整理してみませんか？

「運動麻痺も感覚障害もないのに転倒を繰り返す」「嚥下テストに問題がないのに誤嚥してしまった」そんな症例は高次脳機能障害が影響しています。しかし、実際の臨床では、症状がたくさん上に病態が複雑でしっかり解釈ができないと悩んでいませんか？そこで当会では、脳画像をヒントに高次脳機能障害の症状と病態を極限までシンプルにして理解する講座を考案。症状理解とアセスメントに終始せず、得られた情報から臨床アプローチ・ゴール設定に活かす方法を徹底的に学びます。さあ、あなたも現場ベースで創られた独自のプログラムを学んで、しっかり高次脳機能と向き合ってみませんか？

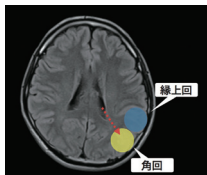
脳を平面ではなく3Dで理解して高次脳機能を直視する独自のプログラム

Lesson 1 脳画像からみた高次脳機能障害のメカニズム

全ての脳機能を暗記するのではなく、脳画像を用いて高次脳機能障害を起こすメカニズムに迫ります。

画像がわかるとこんなことが説明できます

- ◎前頭葉症状が小脳障害で起こる理由
～神経ネットワーク・ループの秘密～
- ◎左側の視床障害で失語症が起こる理由
～形は対称で機能は非対称な左右の脳～



Lesson 2 グループ別に理解する高次脳機能障害の症状と病態

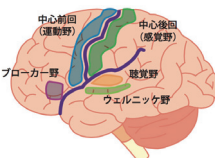
前頭葉系 注意障害・遂行機能障害ほか

頭頂葉系 失行・失認ほか

側頭葉・大脳辺縁系 記憶障害・視覚性失認

劣位半球 半側空間無視・身体失認ほか

優位半球 ゲルストマン症候群ほか



Lesson 3 評価法の選択と重症度から考えるゴール設定のしかた

- ◎教科書にはなかなか書いていない
結果の解釈と信頼性ある評価法
- ◎ゴール設定やアプローチに関わる、
知っていると思える重症度判定

Lesson 4 高次脳機能障害における障害別アプローチの実際

- ◎高次脳機能障害にはどんなアプローチが有用なのか？
～誤りなし学習(errorless learning)・
プリズム適応・ストラテジー訓練など～
- ◎このようなアプローチは良いか？悪いのか？
a. 半側空間無視の患者さんに無視側から話しかけた
b. 注意障害のある患者さんを談話室で食事を開始 ほか



Lesson 5 やってはいけない高次脳機能障害へのリハビリテーションでの対応

- ◎注意障害にやたらと注意してはいけない
- ◎左半側空間無視に左ばかり促してはいけない
- ◎退院直前にメモリーノートを導入してはいけない

Lesson 6 症例から学ぶ！高次脳機能障害患者への具体的ケアの方法

- よく出会う症例を挙げ、起こりやすい障害と
ケアの方法について考えます。
- ◎中大脳動脈閉塞による脳梗塞から
いわゆる劣位半球症候群を呈した1例
- ◎くも膜下出血後、歩行可能も
高次脳機能障害によりADL自立困難であった1例 ほか



※この講座は離床アドバイザー習得コースの理論コース1単位を取得できます。

受講方法

- ① ホームページよりオンライン登録
- ② 添付の申し込み用紙に記入の上、FAXまたは郵送
申し込み用紙はホームページからもダウンロードできます

日本離床学会

検索

お問い合わせ・お申込先

臨床を元気に！日本離床学会

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-2-12 ブラーレルビル2F
ホームページ <https://www.rishou.org/>
TEL 03-3556-5585 FAX 03-6272-9683
Eメール jsea@rishou.org

